

新たな文化を継承していく「がーでん ストリート」

～ 商店街を核とした大宮一番街の再生デザイン ～

BR17078 細谷奈央
指導教員 鈴木俊治

1. 研究背景・目的

近年、大型商業施設やネットショッピングが増加し、利便性や経済性が重要視される状況下で、衰退している商店街が多い。よって、商店街が機能転換を図る必要がある。一方、大都市中心部では緑が不足しており、質の高い緑とオープンスペースによる快適な都市環境形成が重要視されている。

本研究では、上記のような課題を総合的に改善し、商店街を核とした複合市街地を提案する。

2. 大宮区(対象地)について

2-1. 大宮区概要



【図1】大宮区

全国有数の発着場、JR大宮駅が存在する。東北・北陸方面は乗り換えなしでアクセス出来るので、交通機関が充実している。都心へのアクセスも良く、利便性が高いため、住みたい街として評価が高い。埼玉県内トップの商業集積地であり、業務機能のポテンシャルも高く、転入企業数が政令指定都市で第2位である。

2-2. 検討対象地と周辺状況



【図2】対象地区周辺状況

大宮駅東口にはすずらん通り等の昭和の雰囲気が残る路地界隈が残り、活かされている。その中でもやや活力や魅力に欠ける「一番街商店街」を設計対象地として選定する。対象地周辺は建物が密集し、オープンスペースや緑が少ない点が課題である。

2-3. 対象地の現状について

【長所】車が通らないため、人々の通行や食事の場として、安心して利用出来る。そのため、屋外公共空間を活用する店舗が多い。

【短所】店舗の敷地からはみ出た看板や違法増築が歩行空間を妨害している。店舗やアーケードの老朽化が進み、雰囲気が暗い。住吉通りと商店街を繋ぐ道が閉鎖的である。



【図3】対象地利用状況

(商業地域 / 建築率 80% / 空率率 600%)

3. おおみやストリートテラス@一番街 (OST)

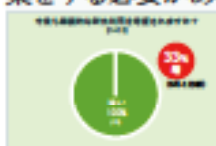
3-1. OSTの概要

おおみやストリートテラス@一番街実行委員会(事務局コーディネート:アーバンデザイン大宮)が主催の道路利活用社会実験である。商店街全体と屋内外の食体験の価値の向上に向け、街路を一体的に利活用し、沿道に経済効果・賑わいを創出することを目的として2020年8月から実施中。

3-2. 調査結果

2020年7月~11月の平、休日(各1日)において、歩行者交通量調査、アクティビティ調査、沿道事業者ヒアリング調査、低層部調査を実施した。その結果を踏まえて、提案を作成した。沿道事業者ヒアリング調査、低層部調査より、以下の点が明らかになった。

- ①商店街の一員としての意識が高く、地域を盛り上げたいという店舗が多い
- ②屋外テラス席の設置等により、通り全体で屋外空間を活用することで、集客や賑わいに繋がる。12月は参加店舗が軒先利用を希望した。【グラフ1】
- ③規制ラインが明確になることで自分のお店のスペースだとわかりやすい。【グラフ2】
- ④他の五つの通りも飲食店が多いため、一番街商店街の魅力である屋外での食体験の価値が向上するような提案をする必要がある。【グラフ3】



【グラフ1】



【グラフ2】



【グラフ3】

4. 問題提起と課題

S(強み)

- ・拠点駅に近く人通りが多い
- ・歩行者優先道路がほぼ毎日確保されている
- ・自転車置き場がある

O(機会)

- ・今後とも首都圏の一大拠点として機能
- ・埼玉国際芸術祭や Westside の買家の小遣等で活動する方々の存在
- ・OST による街路多目的利用の取り組み
- ・GCS など再開発の機運

W(弱み)

- ・アーケードの老朽化、清潔感不足
- ・屋外広告物等による歩行空間狭小化
- ・飲み屋街という印象、商店街としての魅力低下

T(脅威)

- ・大型商業施設が多く、駅近で目的が達成出来るため、駅外に出る人が少ない
- ・他の通りも飲食店が最も多い
- ・商業会組合の方々の高齢化により、取り組みが保守的で変化がない

【課題】

- ①時代潮流に対応し、商店街を核とした地域の魅力再生
- ②飲食以外の機能を導入(アート創作展示、文化、居住など)
- ③意欲ある事業者の事業継続と新規ビジネス誘致
- ④一番街としての運営とPRの強化

5. 設計

5-1. 計画コンセプト



「Growing がーでん ストリート」みんながみんなで育てていくこのがーでんストリートという大きな庭が様々な人々の拠り所となることを目指す。

小さながーでんには様々な人々の物語があり、それらが連鎖することでより、このストリートは希望で満ち溢れた場所に育っていく。

5-2.ゾーニング図



商店街の一部に広場を設けるのではなく、緑を点在させ、商店街一体が広場のような空間構成を目指す

5-3.SDGs



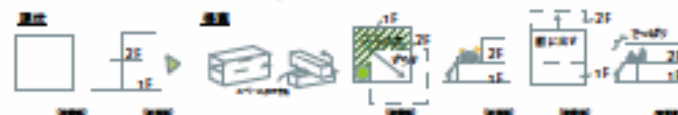
様々な働き方・暮らし方によって大宮という街を商店街からより発展させていく。



日々の生活の中で、緑を感じられる空間を提供することで緑を大切にできるようになる。

5-4.ダイアグラム図 (Main garden street)

①ずらすことによる可能性の拡大



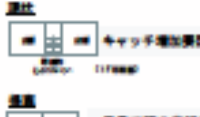
2Fがあまり目立たず、店舗が密集しにくい
①新たな空間として活用できる
②アクティビティが見えることで、2Fに視線がいきやすい

②空間を繋げる



繋ぐことで建物に一体感が出て、様々な視点から眺められる。

③階段を見せる



2階にアプローチしやすい、1、2Fの店舗間士の連携を図りやすくなる。

④賑わいを全体に



夜営業する店舗は、日中賑い
休憩や他店舗のスペースとして活用する。

5-5. 詳細計画



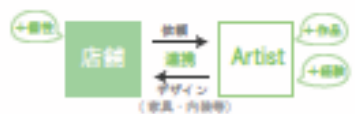
建築物を最大2.6mセットバックして、民地を道路の一部として提供。民地と官地の境界が明確になるようなデザイン。

1年交代制作済み形ブリヂョネ

真っ白な建築物がアーティストによって彩られ、作品の一部となり、多様な外観が創られる。可動式のコンテナは、移動して様々な場所で展示会を開催。



(Main garden street × Art village garden)



3.4Fの機能 シェアオフィス × シェアハウス



個人で会社を立ち上げる人達が共有し、大宮で新たな生活をスタートさせることを期待する



「働く」ために必要な機能はホテル内に配置し、他の機能を1つの大規模な建物の中に収めず、商店街全体にホテルの要素を持たせる。



図4: 配置図第一階平面図



(立面図、断面図)

6. まとめ

本提案により、熱意のある人達が活動し、心躍る体験が連鎖するこのストリートを訪れることで、参加する全ての人々がお互いに刺激をし合い、大宮東口駅前空間全体がより魅力的になる。

参考文献

「中心市街地の再生メインストリートプログラム」/ 著 安達正範 鈴木俊治 中野みどり (2006)・「地域発! つながる・集める施設のデザイン 市町村・商店街の交流・観光・宿泊施設特集」/ 著 バイ・インターナショナル (2019)・「みどりの建築術」/ 著 吉谷俊一 / 吉谷デザイン建築設計事務所 (2019)・中小企業庁 HP・国土交通省 HP・j&f (株) ジェイール東日本企画 HP・さいたま市 HP・国土地理院 地図・アーバンデザイン大宮 HP・影の国 埼玉県 HP